組織目標評価報告書（平成２１年度）

部局名：　医歯薬学総合研究科（薬学系）

	組織目標	達成状況（成果）
教育	1）大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程薬科学専攻を設置し、学生募集要項、入学試験要項を決定し、入学試験を実施する。	大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程薬科学専攻（定員４０名）の設置が認められ、平成２２年度学生募集要項および入学試験要項（入学者選抜選考資料作成に関する要項）を作成し、第１次および第２次の入学試験を実施した。その結果、第１次試験で４１名、第２次試験で１名が合格し、このうち、４０名が入学手続きを完了した。
	2）平成22年度に開設される博士前期課程薬科学専攻の授業科目のシラバスを作成する。	平成２２年度開設の博士前期課程薬科学専攻授業科目のシラバスを作成し、ホームページで公開した。
	3）講義評価などを推進し、大学院教育の充実を図る。	全学で行われている学生による授業評価アンケート以外に、薬学系独自に大学院授業自己評価アンケートを実施した。
	4）外国人入学応募者の学力の確認方法を検討する。	大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程薬科学専攻の外国人留学生特別選抜試験方法を見直し、平成２１年度実施分から学力の確認のため、小論文として専門知識を問うための日本語又は英語の論述試験を実施することとした。
		達成度：　4
研究	1）科研費獲得や共同研究実施を推進する取り組みを行う。	科研費の採択は昨年比、件数で1.15倍、金額で1.41倍、共同研究費、受託研究、奨学寄付金の件数は昨年比、それぞれ0.7倍、1.0倍、1.42倍であり、取組みの成果が認められた。
	2）国際交流研究やトランスレーショナルリサーチの推進を図る。これらの研究成果を基盤に外部資金、特に大型予算を伴うプロジェクトの採択にむけ努力す。	学内COE研究支援プロジェクト「医歯薬学融合型戦略による難治性感染症治療薬開発研究基盤形成」により、マラリア等治療薬の国際共同研究並びに開発を推進するとともに、平成２２年１月に岡山で第3回日中韓国際シンポジウムを開催し、岡山大学と中国の上海中医薬大学・中薬研究所、および韓国の圓光大学校・人獣共通感染病研究センターの間で3カ国の大学間協定の締結に向けて協議した。さらに、医歯薬融合型の本プロジェクトを基盤に「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」の事業名で概算要求特別経費プロジェクトとして文部科学省に申請し、平成２２年度から５年間の計画で採択された。
	3）インドにおける新興・再興感染症拠点を基盤として、感染症研究施設をなお一層充実させ、あわせて大学院教育・研究の進展を図る。	岡山大学新興・再興感染症研究拠点プロジェクトにより、本年度も引続き岡山大学インド感染症共同研究センターを中心としてインドコルカタ市周辺におけるコレラの発症状況を詳細に調査し、大きな成果をあげた。また、インドおよび本学の大学院生の研究指導や人材育成にも大いに寄与した。本年度が最終年度であり、文部科学省の評価委員会や感染症研究推進委員会より、費用対効果が極めて高い実力ある拠点である、今後WHOへも大きなインパクトを与える可能性がある等の高い評価を得ることができた。平成２２年度からは文部科学省の「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」が５年間の計画で採択され、本学のインド国拠点も引続き参画することとなっている。
	4）化学物質の安全管理や研究室の安全性を高める取り組みを行う。	薬学系教職員が毎月１回、２人１組で全研究室を巡回し、毒劇物の保管・管理状況を調査・点検した。本年度後期から、薬学部本館の耐震・改修工事のため、多くの研究室は様々な他部局等へ移転しているが、それぞれの移転先へも出向いて調査・点検を行った。移転先ではガス、火気の使用、研究室の施錠等安全性の確保に努めた。
	5）2010年3月に本学部を主幹として開催される日本薬学会130年会を盛会に導くよう、開催準備をすすめる。	本学薬学系教員が就実大学薬学部教員とともに日本薬学会の130年会組織委員会を形成して準備を進め、３月２７～３０日に岡山市で開催し、約１万人の参加者を得て盛会裏に終えることができた。
		達成度：　4
社会貢献	1）一般人を対象に講演会を開催し、薬学に関する社会の認識を高める。	公開講演会および岡山大学創立６０周年記念講演会を実施し、約170名の一般社会人や高校生の参加が得られ、薬学に対する社会の認識を高めることができた。また、岡山大学が主幹校として岡山市で開催した日本薬学会130年会では「食の安全と医薬品の安全」とのテーマで市民講演会を実施し、約180人の参加者があり、食と薬に対する市民の理解を深めることができた。
	2)企業等と共同研究を展開し、社会の要請に応える。	企業等との共同研究費、受託研究、奨学寄付金の件数は昨年比、それぞれ0.7倍、1.0倍、1.42倍であり、社会の要請に応えることができた。
	3）薬剤師会等と連携し、薬剤師の生涯学習に貢献する。	平成２１年度の学長裁量経費教育研究プロジェクト「地域医療に貢献できる薬剤師卒後教育の基盤形成」により、岡山県薬剤師会、岡山県病院薬剤師会と連携し、平成２２年２月に薬剤師卒後教育セミナーを実施した。また、セミナーの内容を録画し、インターネットで配信する体制を構築し、これらによって薬剤師の生涯学習に貢献した。
	4）行政機関等から教員へ要請される各種委員の就任を支援する。	薬学系の教員が行政機関等から要請された各種委員へ就任するのを支援した。今年度は以下のような委員の要請があり、就任した。大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員（文部科学省高等教育局）、食品安全委員会専門委員（内閣府食品安全委員会）、科学技術専門調査員（文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター）、医道審議会専門委員（厚生労働省医薬品局）、第９５回薬剤師国家試験試験委員（厚生労働省医薬品局）、日本薬学会副会頭（日本薬学会）、国際事業委員会書面評価員（独立行政法人日本学術振興会）等。
		達成度：　4

客観的指標	事　項	前　年	今年の目標	達成状況
	学部入試倍率			
	大学院充足率	前期1．38・後期1．42	前期1．0・後期1．0	前期1．0・後期0．88
	科研費申請率	1.00	1.04	1.05
	科研費採択率	0.5		0.68
	共同研究件数	10	10	7
	受託研究件数	14	14	14
	留年・休学・退学者数	前期　0名・5名・4名 後期　0名・6名・2名	（今年の状況）	前期　0名・7名・1名 後期　0名・9名・1名
	就職率	前期100%・後期100%	前期100%・後期100%	前期84%・後期69%

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し，次年度に向けた改善点等を記載してください。

組織目標については当初の計画どおり、又はそれ以上に達成できた。特に研究領域で学内COE等をはじめとするこれまでの実績が認められ、概算要求として特別経費プロジェクト並びに感染症研究国際ネットワーク推進プログラムのインド拠点が採択されたことは、今後の医歯薬融合型研究活動の大きな推進力となるものと期待される。一方、各指標については、目標以上（科研費採択率）あるいは目標が達成できたものもあるが、目標に届かなかった項目（大学院博士後期課程充足率、共同研究件数、就職率）もみられた。特に就職率は一昨年秋のリーマンショック以降求人が落ち込み、外資系製薬企業の採用数の激減が響いているのか、目標の100%には遠く及ばない結果となった。平成２２年度には薬学系就職・学生委員会を設置することになっており、陣容を充実させ対策を講じていきたい。博士後期課程充足率については、今後留学生や社会人の１０月入学者が見込まれるものの、平成２３年度には博士後期課程の改組および薬学科６年制卒業生が進学する博士課程の設置申請を控えており、薬学系入試委員会を中心として長期的視野で両課程への進学者、入学者の確保を考えていきたい。共同研究件数の低下については、他の受託研究件数、奨学寄付金件数がそれぞれ横ばい、増加であったことから、一時的なものと受け止めている。

【達成度】 4：非常に優れている　3：良好である　2：概ね良好であるが改善の余地あり　1：不十分であり改善を要する

注）本様式は一般的な学部・研究科用であり，部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。

組織目標一覧へ